

令和4年度 岐阜県立関特別支援学校 自己評価・学校関係者評価

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で生きていくために必要な知識・技能を身に付ける。〈知識・技能〉</li> <li>・自ら考え、自分の思いや考えを表現する。〈思考力・判断力・表現力〉</li> <li>・自ら学び、仲間と共に高め合える。〈学びに向かう力・人間性〉</li> </ul>
--------	---

【小学部】

評価する領域・分野	教育活動
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育方針については、「一人一人のよさや可能性を伸ばす」「信頼」に高評価だが「特色ある教育」は評価がやや下がる。「教職員」「緊急時の対応」の対応の評価が高い。日頃の訓練や保護者と連携が取れている。・外部専門家との連携が最も評価が低い。保護者のニーズの高さがあり、今後強化していきたい。</li> </ul>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①家庭、医療、福祉等の関係機関と連携し健康管理に努めるとともに、個に応じた支援を通して基本的な生活習慣の形成を図る。</li> <li>②児童の興味・関心を喚起するよう体験的な活動の充実を図り、自分の思いや考えを周りの人に伝えたり、児童のもてる力を発揮したりできる状況づくりの推進。</li> <li>③個々の実態を的確に捉え、児童が「やりたい」「楽しい」と期待がもてる活動や学習集団の工夫に努める。</li> </ul>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年、グループ等で児童の情報を共有し、個に応じた支援を組織で行うようにする。</li> <li>・学習グループ等において教師間で児童の実態を把握し情報共有する。</li> </ul>
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>①保護者と児童の健康状態を確認したり、学校や家庭での様子を共有したりすることで、安心して登校し活動できる。関係機関と連携し、問題解決を図る。</li> <li>②活動の中で、児童が自分で選択して取り組む場面を設定することで、自分の思いを伝える機会を増やす。教員間で情報共有する。</li> <li>③ICT 機器等を積極的に活用した授業づくりと活動保障、グループ等の課題別の学習を有効に活用する。</li> </ul>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①児童の情報を保護者や関係機関と共有し、適切な支援体制がとれているか。</li> <li>②児童が自分で選択する場面や思いを伝える環境を設定した授業づくりを行っているか。</li> <li>③児童が主体的に取り組めるように教材・教具の工夫など配慮しているか。</li> </ul>
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>①摂食や家庭支援等について、保護者や、訓練士、看護師、関係機関等と連携をとりながらすすめた。また、学校のST相談も活用した。基本的な生活習慣の形成のため保護者から情報を得て、児童の実態に合わせた支援を行った。</li> <li>②児童の興味・関心を基に題材や教材を設定した。授業のなかで、選択する場面や思いを伝える場面を設定した。</li> <li>③友達が楽しむ姿に注目できるように、配置の工夫や見る時間を設定した。グループの活動では、児童の実態を考慮して課題を設定したり、仲間同士の関わる場面を意図的に設定したりした。</li> </ul>
評価の視点	中間評価
① 児童の情報を保護者や関係機関と共有し、適切な支援体制がとれているか。	A ㊸ C D
② 児童が自分で選択する場面や思いを伝える環境を設定した授業づくりを行ったか。	A ㊸ C D
③ 児童が主体的に取り組めるように教材・教具の工夫など配慮しているか。	A ㊸ C D
成果・課題 ※「取組状況・実践内容等」「評価の観点」に対応して記入する	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>①関係機関と「つながる会」等の保護者支援の取組ができた。</li> <li>②意思表示の支援によって、より伝わる発声ができるようになった。</li> </ul>	A ㊸ C D

③見通しがもてる授業の流れの工夫や言葉掛け、楽しむ姿を見せる等意欲を高める支援によって、達成感や主体的な学びにつながった。 ▲個の支援が全体の支援にならない場面があった。	
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童にとって必要と思われる訓練等について、伝え方を工夫していく。</li> <li>・緊急時の対応については状況に応じて、訓練等を通して職員間で確認していく。</li> </ul>

【中学部】

評価する領域・分野	教育活動
現状及びアンケートの結果分析等	・生徒一人一人のよさや可能性を伸ばせるような工夫がされており、教員への信頼感も高く、保護者との連携はよい。ICT 機器を活用は行っているが、どのように活用されているかわからないとの評価もあり課題である。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 個に応じた適切な方法を取り入れながら、基本的な生活習慣や社会生活に必要な知識技能を育てる。</li> <li>② 個の発達段階等に合わせて、表現方法の課題を設定したり、促したりしてコミュニケーション能力を育てる。</li> <li>③ 仲間と関わる活動を通して、お互いを認め合うことで、自己肯定感（自己受容感）を高め、仲間を尊重する気持ちや態度を育てる。</li> </ol>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・類型、学年、部会等で生徒の情報を共有し、個に応じた支援を組織で行う。</li> <li>・他学部や保健室等との連携をする。</li> <li>・外部の支援機関と連携し、必要に応じて支援会議などを行う。</li> </ul>
目標の達成に必要な具体的取組	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 類型会等を活用し単元シートをもとにした生徒の実態把握、学習内容、学習課題及び評価を行う。 コロナウイルス感染症予防対策のうえ、ICT 機器やオンライン授業の活用、体験的主体的に取り組める授業づくり。 地域や家庭と連携し、保護者や教員間で情報共有の徹底。</li> <li>② 生徒が自分の思いを表現できる機会を設定したり、タブレット等を活用したりして表現できるような環境整備。</li> <li>③ 活動方法を工夫した仲間と関わる活動の設定。</li> </ol>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 生徒の情報を共有し、適切な支援を共通して行うことができたか。</li> <li>② 生徒の興味・関心を引き出したり、学習効果を高めたり、主体的に取り組めるようにICT機器の活用や教材・教具の工夫ができたか。</li> <li>③ 仲間と関わる活動の設定を職員間で話し合うことができたか。</li> </ol>
取組状況・実践内容等	<ol style="list-style-type: none"> <li>①授業計画や生徒の様子等について類型会や日々の話し合いを行った。また、単元シートについて、作成にはチームスを活用し、教師の動きや教材の説明をイラストで示したことで、共通理解を図ることができ有効活用できた。</li> <li>② ICT機器をA類型は毎日PCを活用し、CD類型は授業内容に合わせて映像や写真等を効果的に活用した。</li> <li>③学校祭や季節単元、『集団あそび』等、仲間との関わりを意図的に計画実施した。単元シートをもとに情報共有をし、指導内容を共通理解して取り組んだ。</li> </ol>
評価の視点	評 価
①生徒の情報を共有し、適切な支援を共通して行うことができたか。	A (B) C D
②生徒の興味・関心を引き出したり、学習効果を高めたり、主体的に取り組めるようにICT機器の活用や教材・教具の工夫ができたか。	A (B) C D
③仲間と関わる活動の設定を職員間で話し合うことができたか。	(A) B C D
成果・課題	総合評価
<ol style="list-style-type: none"> <li>①類型会や日々の話し合い、単元シートを有効活用してことで、情報共有をでき指導支援の充実につながった。</li> <li>②ICT機器を生徒の実態や授業内容に合わせて活用することで、学習意欲が高まり主体的に取り組むことができた。通信等で保護者に活動内容を発信した。</li> <li>③感染症対策をしつつ、仲間と関わる活動を計画的に設定したことで、生徒が自然と仲間と活動を誘ったり、言葉を掛け合う姿が見られたりするようになった。</li> </ol>	A (B) C D
来年度に向けての改	・ICT機器の活用について、生徒が自ら活用する場面設定の充実と職員の活用

善方策案	方法の研究や保護者への情報発信などの充実を図る。
------	--------------------------

【高等部】

評価する領域・分野	教育活動
現状及びアンケートの結果分析等	・職員の人柄や、生徒への接し方など保護者からの信頼を得ていることが分かる。ただし、授業においては、生徒の実態と合っている、授業内容の進度が合っていると思っている割合が高くはない。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	1 授業の目標を明確にし、教員間で授業計画についての共通理解を十分行った上で生徒の進路実現に向けた授業を実践する。 2 生徒が主体的に取り組めるような具体的な課題を設定し、生徒自身自分の考えや思いを積極的に表現できるようにする。 3 生徒相互のコミュニケーションを大切にし、協働的に課題に取り組むことを通じ自立のために必要な力を育む。
重点目標を達成するための校内組織体制	・学級、類型会、学年会、学部会での生徒の情報を共有する。 ・必要に応じて、校内・校外と連携した支援会議を行う。
目標の達成に必要な具体的取組	・個々の進路に必要な学力、体力、技術を早めに職員間で共有し、進路実現に向けて生徒に課題を提示していきたい。また、実習等の際には具体的な評価をしていく。 ・生徒の実態に合わせ、適切に ICT 機器を利用したり、写真や実物などを用意することで、生徒にとって分かりやすく興味をもって授業に臨める工夫をする。 ・意見を交流できる場を設定したり、協力し合って活動する場面を設定したりする。そのためにも学習の場を学年、類型、学部全体など工夫する。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・職員間で情報を共有し、課題を明確にして生徒に支援することができたか。 ・ICT 等を活用するなど生徒が授業に興味関心をもつことができたか。 ・仲間との関りに楽しみや期待感をもつことができたか。
取組状況・実践内容等	・必要に応じて類型会や学年会を行うことができた。 ・ICT を活用した授業づくりに積極的に取り組むことができた。 ・仲間との関りを意識して集団活動を取り入れることができた。
評価の視点	評 価
① 生徒の進路実現に向けた授業を実践できたか。	A ㊦ C D
② 生徒が主体的に取り組めるような具体的な課題を設定することができたか。	A ㊦ C D
③ 生徒相互が、協働的に課題に取り組むことを通じ自立のために必要な力を育む。	A ㊦ C D
成果・課題	総合評価
① ○進路について、自分で体験し進路決定していくまでをていねいに支援できた。 ▲単元シートを活用し職員が共通理解し、授業の評価をするまでは至っていない。	A ㊦ C D
② ○電子白板やメタモジを活用することで、授業に意欲的に参加できた。	
③ ○生徒会活動では生徒主体の活動や進行に心がけて支援することができた。	
来年度に向けての改善方策案	・単元シートを活用し、類型内または他類型の職員間で生徒の支援を共通理解し、授業力の向上に繋がるように類型会等で活用する。(データ、ファイルにまとめる)

【教務部】

評価する領域・分野	教育活動
現状及びアンケートの結果分析等	学校教育目標や教育方針、個々の良さや可能性を高める工夫については、肯定的な評価。個々に合った教材・教具を取り入れた教育活動への期待が高い。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	◎「指導と評価の年間計画」と個別の指導計画を中心としたPDCAの活性化 1 日々の教育活動における「個別の指導計画」と「指導と評価の年間計画」に基づいたPDCAサイクルの展開のよる一人一人に応じた学習支援の充実。 2 新学習指導要領の理念を踏まえ、「個別の指導計画」と「指導と評価の年間計画」を元にしたカリキュラムマネジメントを推進する校内体制づくり。
重点目標を達成するための校内組織体制	1 年間3回(年度当初・1学期末・2学期末)の「個別の指導計画」記載時のPDCA視点での記載についての教務部からの周知。 2 主題研究と連携した「指導と評価の年間計画」の具体としての「単元シート」の作成及び類型内での共有。
目標の達成に必要な具体的な取組	1 新「指導と評価の年間計画」を日々の授業計画の中で活用することによって、『授業改善』の充実に取り組む。 ・学級(各教育課)毎に一元化した「指導と評価の年間計画」による行事や他教科とのつながりのある教育活動の実施。 ・単元シートの活用による、授業改善及び教員間の共通認識の活性化。 2 「個別の指導計画」を元に、実態—指導目標—手立て—評価のつながりを明確にし、確実な『学びの連続性』につなげる。 ・各教育課程にある教育内容に基づいた視点での実態の記載の周知。 ・①今年度指導目標を達成するための前期指導目標と手立て、②前期評価を受けての後期指導目標と手立て、③後期評価を受けての次年度指導目標への反映。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	1 新「指導と評価の年間計画」を基に、「単元シート」を作成しながら、日々の授業改善に取り組めたか。 2 「個別の指導計画」における教科と自立活動の視点での実態把握とともに、それに基づいたPDCAによる次学期への反映ができたか。
取組状況・実践内容等	1 ・新「指導と評価の年間計画」の意図の周知と具体的な作成手順についての説明及び、各教室での掲示を実施。 ・「単元シート」の例示、共通理解及び授業改善の活用への定期的な周知。 2 ・「個別の指導計画」の実態について、教科と自立活動の視点での整理。 ・前期評価及び後期指導目標の類型等での話し合い日を月予定に明記。
評価の視点	評 価
① 新様式「指導と評価の年間計画」を作成し、日々の授業に活用できたか。	A B C D
② 「個別の指導計画」に基づいた実態—指導目標—手立て—評価ができたか。また、その評価を次の段階へつなげることができたか。	A B C D
成果・課題	総合評価
【成果・課題】 ① ○一元化⇒学習時期と内容の共通理解が可能。教科等間の縦の繋がりが明解。 ○新様式への対応⇒授業毎に単元シートをファイリングしていくことにより、単元シート作成の意識が高まり、引継ぎ資料としての成果物ができた。 ▲活動ありきにならない授業計画及び単元シートを用いた授業改善の活性化。 ② ○「通知表及び次学期目標作成会」(各学期末に4回)の設定 ⇒話し合う時間の確保及び期日までの計画的な作成。 ⇒評価だけでなく、次学期目標の検討も行うことで、目標の繋がりを意識化。 ▲「自立活動」と「教科」のそれぞれの実態及び目標の明確化。	A B C D
次年度に向けての改善方策案	①個々の児童生徒の目標を達成できる授業を目指して ⇒前年度から引き継いだ「指導と評価の年間計画」を基に、新年度に新担任団で「個別の指導計画」の目標と照らし合わせて「指導と評価の年間計画」の見直しを行い、実態から導き出した目標を基にした活動内容を設定。 ①作成した単元シートの活用を目指して

	<p>➡目標や活動内容の共通理解・授業改善を図る方法や場の設定。Teams の活用。</p> <p>②「自立活動」と「教科」のそれぞれの実態及び目標の明確化を目指して</p> <p>➡学習指導要領に示された教科の目標や指導内容の理解を深める。</p> <p>➡自立活動の中心課題を学級等で検討する時間の設定。(4月・8月・2月)</p>
--	--

【キャリア支援部】

評価する領域・分野	教育活動	
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導においては、関係諸機関との連携について保護者には分からないという意見がみられた。</li> <li>・地域における特別支援教育のセンター的機能について、乳幼児教室や支援相談、研修会等の実施に努めているかどうか分からないという保護者の意見が昨年度より増えた。</li> </ul>	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎児童生徒一人一人の障がいや発達段階・生活年齢、家庭状況に応じた自立的な生活を目指し、小学部から高等部まで切れ目のないキャリア支援を推進する。</li> <li>◎合理的配慮の観点を反映させた「個別的教育支援計画」及び「個別の移行支援計画」の立案と活用を進め、児童生徒一人一人の障がいや発達段階・生活年齢に応じた自立的な生活を目指したキャリア支援を推進する。</li> <li>◎関係諸機関とのスムーズな協力体制を築き、特別支援教育のセンターとしての役割を果たすとともに、卒業後への円滑な移行支援を図り、卒業生への継続的な支援を推進する。</li> </ul>	
重点目標を達成するための校内組織体制	分掌内の各係担当窓口とした取り組みの発信・改善策及び対応 各学部・分掌内情報共有	
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路体験実習、職場施設見学の実施、発達障がい、精神障がいを有する生徒の進路開拓</li> <li>・保護者との連携、進路行事への保護者の参加の呼びかけ（進路週間、進路体験実習、事業所見学、進路発表会）、移行支援会議の実施</li> <li>・合理的配慮の観点を反映させた「個別的教育支援計画」の作成と保護者・地域のニーズに応じた活用の工夫</li> <li>・校内支援、居住地校交流の推進、地域のニーズに応じたセンター機能の実施</li> </ul>	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 各学部発達段階に応じたキャリア支援に関する行事の開催、情報を発信し、各ニーズに応じて必要な情報を伝えることができたか。</li> <li>2 進路決定に向けて、ニーズに応じて見学や実習など具体的な取組が行えたか。</li> <li>3 コロナ禍の状況を踏まえつつ、地域や校内のニーズに応じた支援が実施できたか。</li> </ol>	
取組状況・実践内容等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 個々の希望する事業所への見学・実習を実施している。</li> <li>2 様々な外部関係機関との連携を図ったり、会議に出席したりする。</li> <li>3 個別的教育支援計画の合理的配慮の観点の検討及び活用。</li> <li>4 つながる会（地域連携協働会議）を新規に計画し、実施。</li> <li>5 研修会の公開や居住地校交流、かけはしノートを書く会、訓練参観とりまとめ、訪問支援や来校相談や見学、支援会議等を実施。</li> </ol>	
評価の視点		評価
① コロナ禍の状況を踏まえつつ、事業所見学、オンライン打合せ・電話等可能な方法を取り入れ、実習日数調整等を行い各個人のニーズに応じた進路支援が実施できているか。		A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
② コロナ禍の状況を踏まえつつ、昨年度の反省や引継ぎをもとに、オンラインや対面等のやり方の工夫をし、地域や校内のニーズに応じた相談支援が実施できているか。		A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
成果・課題		総合評価
① 個に応じて進路に関する必要な情報を提供し、進路選択に関しては納得がいくまで見学や実習を行うことができた。また、小中学部の保護者対象の事業所見学会や、中学部も進路体験実習を実施できた。 様々な外部関係機関との連携を図ったり、会議に出席したりすることで情報収集や情報の共有ができ、一人一人のニーズに合わせた進路指導ができ、進路決		A <input checked="" type="checkbox"/> B C D

<p>定につながった。</p> <p>▲ 進路行事への保護者の参加が少ない。</p> <p>②○新規児童生徒を中心に、複数で合理的配慮の観点の検討を行い、個別の教育支援計画に反映させた。昨年度より検討した活用の仕方については、保護者のニーズに合わせて個別に譲渡または回収をする方法で、適切に実施した。譲渡及び回収の両方のニーズがあったため、次年度も同様の方法で実施する。</p> <p>○地域の理解を求めつつ、つながる会（地域連携協働会議）を新規に実施した。対象児童生徒の保護者全員が希望し、関係機関との顔の見える関係づくりができ、保護者の安心につながった。</p> <p>▲反省を踏まえ、時期や時間、やり方をさらに工夫していく。</p> <p>○コロナ禍の状況を踏まえつつ、オンラインや対面等やり方を工夫しながら、研修会の公開や居住地校交流、かけはしノートを書く会、継続した訪問支援や来校相談及び見学、地域の「たのしみん祭」への参加、支援会議や主治医訪問等の校内支援を実施した。乳幼児教室は感染状況により中止としたが、参加保護者の相談内容に個別に対応したり、つないだりした。</p>	
<p>来年度に向けての改善方策案</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路の行事については、紙の配付だけでなく、すぐメールで発信したり、担任から提出を促したりしてもらいなどして保護者に知ってもらい、参加していただく。</li> <li>・キャリアパスポート定着に向けて、各部担当を決め、4月から始められるように周知する。</li> <li>・地域に関するセンター機能については、個人情報に配慮しつつ、ステップアップや学校だよりを活用して広報する。校内支援については、部会等の連絡を活用し、学部内の職員で必要な事項を共有するように努める。</li> <li>・乳幼児教室については、令和7年度の各務原特別支援学校開校をふまえ、これまでの地域の参加状況から、主事会で確認いただいたように令和5年度で事業を取りやめることとする。</li> </ul>

【学習支援部】

評価する領域・分野	教育活動
現状及びアンケートの結果分析等	<p>アンケートでは「24. 一人一人に合った教材・教具が準備されている」「31. ICT教育を推進している」について、否定的な意見が昨年度よりも5ポイント以上上昇している。保護者の期待が大きい分野でもあり、今後さらなる充実が必要である。</p>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>1 研修・研究を通して、①教員の専門性と②チーム力の向上を図る。</p> <p>2①情報管理：Teams を活用し教員間のコミュニケーション機会の充実を図る。</p> <p>②ICT 活用推進：日々気軽に ICT・AT 相談ができる環境をつくる。紙資料削減</p>
重点目標を達成するための校内組織体制	<p>1 学習支援部（研修・研究担当）、研究推進委員会</p> <p>2①学習支援部（情報管理担当と担当主事を中心に）</p> <p>②学習支援部（ICT 推進担当を中心に）</p>
目標の達成に必要な具体的取組	<p>1 研修：学びの日（自主研修会）、ICT 自主研修、PT・OT・ST 相談、夏季研修会（コーチング研修）</p> <p>研究：主題研究（単元シート等の活用を通じたカリキュラム・マネジメント）、新学習指導要領に関する学習会、教員の授業参観</p> <p>2①Teams：チームの作成、メンバーの追加、活用ルールの作成周知、技術支援、活用ルールの見直し</p> <p>②学びの日や自主研修の設定（ICT ニーズの把握と相談活動）、PDF 活用推進</p>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<p>1①研修・研究の取組を通して、授業づくり、摂食、身体の動き・姿勢、ICT 活用等の専門性に関して、学びが深まり授業等に生かすことができたか。</p> <p>②研修・研究の取組を通して、児童生徒や授業についてチームで話す機会が増えたか、または話し合い深まりを感じたか。</p> <p>2①発信：教員間の連絡事項周知等に Teams が活用されているか。</p> <p>受信：全校職員が Teams を見て活用できているか。</p> <p>②アンケート内容に応じて、ICT 活用自主研修を開催できているか。</p>

	②会議等の、紙資料が減っているか。	
取組状況・実践内容等	<p>1・学びの日：摂食指導（11名）、姿勢・身体の動き（14名）、ICT活用（10名）の3グループで、年間9回実施（参加者35名）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PT・OT・ST相談：PT40時間、OT35時間、ST45時間（月1～2回）</li> <li>・夏季研修会（コーチング研修）：常葉大学 久米教授を講師に実施</li> <li>・主題研究：単元シートを活用した授業づくりを実施（研究の日：年8回）</li> <li>・学習会：新学習指導要領について2回、グループワーク1回</li> <li>・教員の授業参観：年間最低2回</li> </ul> <p>2①Teamsを教員間の情報共有ツールとして活用。4月活用開始。10月11チームに全員所属。ガイド作成。在宅勤務対応。連絡周知や、簡単な相談に活用できた。</p> <p>②学びの日：Teamsを使用し、教員のICTに関する困りごとを把握し、話し合ったり、外部講師を呼んだりして解決策を探ることができた。また、余暇活動等で使えるアプリや補助具の紹介をした。</p> <p>②学部会に加え、職員会議資料をPDFにしたことで紙資料が削減できた。</p>	
評価の視点		評価
1①研修・研究の取組を通して、授業づくり、摂食、身体の動き・姿勢、ICT活用等の専門性に関して、学びが深まり授業等に生かすことができたか。		A (B) C D
②研修・研究の取組を通して、児童生徒や授業についてチームで話す機会が増えたか、または話し合い深まりを感じたか。		A (B) C D
2①連絡事項周知等にTeamsが活用されているか。 全校職員がTeamsを見て活用できているか。		A (B) C D
②学びの日で学んだことを、日々の支援に活かすことができたか。		A (B) C D
②会議等、紙資料が減っているか。		A (B) C D
成果・課題		総合評価
1①②○教員間の学び合いが、経験の浅い教員の専門性向上の機会となった。 ○主題研究での単元シートの活用や、夏季研修会・学習会で学んだコーチングスキルの活用が、チームでの授業づくりに活かされた。 ●授業力・専門性向上のために、今後も全職員での学び合いの機会設定が必要。		A (B) C D
2①○Teamsによる教員間の情報共有環境を構築することができた。		
②○ICT活用に関する児童生徒から出た要望に対して、答えることができた。 ○タブレット端末の持ち帰り等の整備をすることができた。 ○校内職員向けのアンケート等をデジタルで行う事が増えてきた。		
来年度に向けての改善方策案	1①②全職員で学び合いができるより充実した研修・研究体制の検討	

### 【生徒支援部】

評価する領域・分野	教育活動
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめや虐待の早期発見、早期対応を徹底し、組織的な対応を行う。</li> <li>・防災、防犯意識を高め、年間を通して訓練に取り組む。</li> <li>・児童生徒の主体的な活動を推進する。</li> </ul>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>1 基本的な生活習慣や望ましい生活態度を育てる。</p> <p>2 学校生活全般を通して好ましい人間関係の育成を図る。</p> <p>3 家庭や関係機関と連携し、思いやりのある心を育てる。</p> <p>4 災害や不審者に適切に対応する力を育てる。</p> <p>5 SBの共同運行を安全かつ計画的に行う。</p>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各担当を中心に、他の校内組織や外部の関係機関と連携する。</li> </ul>
目標の達成に必要な具体的取組	<p>1 生徒向けの研修を実施する。</p> <p>2 ニコニコの木の作成、さんざし祭を中心にした児童生徒会活動（全校集会の実施、全校取り組み企画の計画と実施）、MSリーダーズ活動を充実する。</p>

	<p>3 SC 面接、教育相談研修、いじめ等のアンケートを実施する。</p> <p>4 命を守る訓練、シェイクアウト訓練、不審者対応訓練、防災研修を実施する。</p> <p>5 事務部、中濃特支、添乗員、運転手との連携、校外学習等の SB の運行計画と実施学年との連携を行う。</p>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<p>・児童生徒が安全に安心して、主体的に学校生活を営むことができたか。</p>
取組状況・実践内容等	<p>1 生徒向けの研修（情報モラル、薬物防止、消費生活）を実施することができた。インフォメーションを利用して教員向けに情報を提供することができた。</p> <p>2 自己紹介カードやいいとこ見つけカードを生徒会が作成し、ニコニコの木に全校児童生徒が張り付けることができた。さんざし祭では、児童生徒会が中心となって全校活動を実施できた。MS リーダーズ活動として挨拶運動や校内美化活動が実施できた。</p> <p>3 職員向け研修を実施し、SC との定期的な相談を継続して行うことができた。</p> <p>4 防災防犯の訓練を計画し、職員向けの防災研修やさすまた研修も実施できた。</p> <p>5 添乗員連絡会等を活用して情報共有を行い、安全な運行を行うことができた。</p>
評価の視点	中間評価
① 基本的な生活習慣に関わる取り組みは適切であったか。	A B C D
② 自主性、自立の育成に関わる取り組みは適切であったか。	A B C D
③ 児童生徒理解と信頼関係を築くための取り組みは適切であったか。	A B C D
④ 防災、防犯、安全に関わる取り組みは適切であったか。	A B C D
⑤ SB の共同運行が、安全かつ円滑に行うことができたか。	A B C D
成果・課題	総合評価
<p>○生徒会が中心となった活動を計画・実施することができた。</p> <p>○各担当者を中心に活動内容を見直し、整理して実施することができた。</p> <p>▲生徒が見通しをもって活動ができるように先の行事や取り組みについての支援を行う。</p>	A B C D
来年度に向けての改善方策案	<p>・外部の出前講座等を積極的に活用し、教科や学年等との連携を図る。</p> <p>・さんざし祭、MS リーダーズ等、コロナの状況を判断しながら、外部との連携や外部での活動を計画していく。</p> <p>・生徒会活動や部活動は、生徒の実態に合った活動を計画・運営する。</p>

### 【保健安全部】

評価する領域・分野	保健安全
現状及びアンケートの結果分析等	<p>・コロナ対策を徹底しながら行事を再開したことについてよい評価があった。</p> <p>・緊急時対応や小児科医・整形外科医との連携について伝えていく必要がある。</p>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>1 新型コロナウイルス感染症予防の推進</p> <p>2 当校における安全な医療的ケアの実施</p> <p>3 個々の児童生徒に適した食形態や配慮食の提供</p>
重点目標を達成するための校内組織体制	<p>1 管理職との連携、学校医・指導医の意見、校内職員への情報提供。校内研修。</p> <p>2 看護師との日々の情報共有。</p> <p>3 配膳員との協力、摂食自主研修会</p>
目標の達成に必要な具体的取組	<p>1 管理職と連携し産業医や学校医等の意見も取り入れ、校内方針を決める。</p> <p>2 看護師間の日々の情報共有。医ケア児の災害時の安全な非難方法の考察。</p> <p>3 配膳員と協力した二次調理の実施。自主研修会で食形態の改善を目指す。</p>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<p>1 適切な対応策の構築と職員の危機意識の保持。校内での感染症拡大を防止。</p> <p>2 安心・安全な医療的ケアの実施。非常時や被災時の対応の共通理解。</p> <p>3 配慮食の提供。児童生徒に適した食形態を探り、職員に情報提供する。</p>
取組状況・実践内容等	<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策を職員間で共通理解し、物品等を準備した。</li> <li>・行事再開時のコロナ対策を担当者や管理職と連携して実施した。</li> <li>・感染症予防研修会を実施し、感染症の特徴や対策等を研修した。</li> </ul> <p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記録ノートやケア時の動画を活用して、看護師間で情報共有できた。</li> <li>・避難時の人工呼吸器の電源確保まで訓練を実施できた。</li> </ul>

	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配膳員と協力し効率よく配慮食を作ることができた。</li> <li>・助成金を活用し、物品や講師依頼をし、食形態の研修を実施した。</li> </ul>
評価の視点		中間評価
① 感染症対策が十分であったか。		A <input checked="" type="radio"/> B C D
② 看護師との情報共有を密に行い、安心して医療的ケアが実施できたか。		<input checked="" type="radio"/> A B C D
③ 摂食支援を行ううえで、より児童生徒に合った食形態を考えて取り組めたか。		<input checked="" type="radio"/> A B C D
成果・課題		総合評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>○研修等を通して、基本的な感染対策の重要性を再認識することができた。</li> <li>○日々の医療的ケアが順調に実施できている。▲来年度、人工呼吸器の児童が2人に対応するため、看護師の増員や配置、動きの再検討が必要である。</li> <li>○自主研修会でよりよい食形態を確認できた。▲給食への適応方法の検討が必要。</li> </ul>		A <input checked="" type="radio"/> B C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師の増員を受け、医療的ケアのスケジューリングの検討。人工呼吸器の児童が安全に活動するための配慮事項を主治医等の意見を取り入れて検討する。</li> <li>・配膳員と協力し、二次調理時に酵素やゲル化剤、デリソフターを使用して、児童生徒により適した配慮食を提供できるようにする。</li> </ul>	

### 【渉外部】

評価する領域・分野	渉外部関係（PTA・同窓会）	
現状及びアンケート結果分析等	コロナ感染症対策のため、コロナ感染症前に実施していたPTA活動が全て実施できていない状況にある。そのため、保護者も新転任教職員も当校のPTA活動のイメージがもてていない。	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 家庭と学校との協力、連携に向けた取り組みを推進する。</li> <li>2 児童生徒の減少に伴い、規模に似合ったPTA活動を支援していく。</li> </ol>	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 渉外部会、PTA執行部会・役員会、同窓会役員会</li> <li>2 渉外部会、PTA執行部会・役員会</li> </ol>	
目標の達成に必要な具体的取組	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ・コロナ禍で、PTA活動ができなかった昨年度から、家庭と学校が連携し、どういったPTA活動を進めていくか考え、決定した内容についてサポートしていく。</li> <li>2 ・今後の児童生徒数の変化に応じたPTA組織・活動について、分掌やPTA役員間で相談し過度な負担がかからないよう意見をききつつ、可能な限り学校で動いていく。</li> </ol>	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の参加状況</li> <li>・コロナ感染症への対策をした上での運営方法</li> </ul>	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内のPTA活動、環境整備、防災等の情報交換会等では、PTA会長を中心に進めて行くことができた。</li> <li>・厚生委員会は、施設見学を企画し、2か所の事業所の見学を実施した。学校祭では、ゲームコーナーを担当し、事前準備当日ともたくさんの委員が参加し実施できた。</li> <li>・PTA広報委員長と都度連絡を取り合っ、「さんざし」の作成や学校行事の写真撮影に臨み、撮影した写真を活用して、学校HPに掲載した。また、「さんざし」の校外配布では、職員にも協力を仰ぎ郵送費の削減に努めた。</li> <li>・学校行事関係では、コロナ対応に則った行事案内や電報の礼状送付を行った。</li> <li>・同窓会活動は、「みんな集まれつどいの会」の企画を考えたが、実施できず。長い間、同窓会役員をやっていただいた方と新メンバーとの引き継ぎの会を1月に実施できた。</li> </ul>	
評価の視点	評 価	

①家庭と学校との協力、連携に向けた取り組みを推進することができているか。	A ㊸ C D
②児童生徒の減少に伴い、分掌としてPTA活動を支援することができているか。	A ㊸ C D
成果・課題	総合評価
<p>○同窓会活動では、コロナ禍でなかなか集まることができていないが、長期間になり負担をかけていた会長をはじめとする役員の後任を固めることができた。</p> <p>○学校祭では、久しぶりにPTA企画を行った。事前準備・当日とも多くの保護者で企画を盛り上げて頂けた。</p> <p>○厚生委員会担当の施設見学は数年ぶりに実施することができた。保護者が進路先について知り、情報交換し合うよい機会となった。</p> <p>○広報委員会では、学校行事の写真撮影という取り組みを行った。また、その写真を活用して学校HPや広報紙へ掲載した。</p> <p>○広報委員の人数を減らしたことにより、委員間の連絡が取りやすくなった。</p> <p>●久しぶりの学校祭におけるPTA企画であったため、保護者が「全員PTAの委員会に所属しており、活動を行う」という自覚がないことが浮き彫りになった。特に、入学して初めてのPTA企画で学校祭に参加となる保護者に参加を呼び掛ける際、担任も当校のPTAの在り方について理解しておらず、そこに説明を要した。</p> <p>●校内のPTA活動では、日中働いているPTAの方々が多く、集まれる方がいつも一緒。なかには、自分がどんな活動をされているのか知らない方もみえたので、今後周知していく必要があると感じた。</p> <p>→これから新しい活動の形を作り上げていけばよい。その活動と積み上げていくことで「保護者全員がPTAの委員会に所属していること」「PTA活動はみんなで盛り上げていくもの」を保護者が少しずつ感じてくれ、当校職員にも分かっていたらと信じて進む。</p>	A ㊸ C D
来年度に向けての改善方策案	<p>○本年度委員会の役割に応じた人数配分を見直した。次年度も同じ体制で行っていく。</p> <p>○学校と連携を密にし、少しでも保護者の方が有意義に感じてもらえる企画を考えていく。</p>

### 【舎務部】

評価する領域・分野	寄宿舎教育
現状及びアンケートの結果分析等	<p>舎生数が減少していることで舎生一人に対して深くかかわり支援できる環境である。舎生数が減少していることで舎生同士の関わりを持つことが難しくなっている。</p> <p>こまめな手指消毒の習慣がついてきて、感染症予防に対する意識は高まっているので今後も気を付けて生活していく。</p>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>1 心身ともに健康で安心かつ快適な寄宿舎生活を支援する。</p> <p>2 自分で考え主体的に行動できる自立心を育成する。</p> <p>3 お互いに認め合い、協力できる態度を育成する。</p>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導員間で情報共有を密に行い、舎生への共通理解を深め支援にあたる。</li> <li>・日々の支援や、生活の記録を記入し、全指導員で共有し、振り返りをする。</li> <li>・各舎生に適した支援の方法を考え、卒業後を見据えた自立を促す。</li> <li>・保護者、学級担任各関係機関と連携しながら色々な面から舎生を捉え、支援を行っていく。</li> </ul>
目標の達成に必要な具体的取組	<p>1 ・学級担任、保護者と密に連携を取り、心身の状態を把握する。</p> <p>2 ・舎生一人一人にとって必要な力とは何か部屋担当を中心に指導員間で話し合い共通理解を図り、日々の生活の中で状況に応じた支援に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な生活場面において舎生が主体的に表現できる力を育む。</li> </ul> <p>3 ・自分の気持ちを人に伝えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・舎生同士が関わる場面を大切にし、仲間の存在を意識できるよう支援する。</li> <li>・日常的なあいさつや、言葉かけなど舎生同士がかかわる場面を大切にし、仲</li> </ul>

	間の存在を意識できるように支援する。	
*達成度の判断・判定基準あるいは指標	<p>1 支援計画シートを活用し、舎生の心身の状態を職員で共有し、支援の振り返りができているか。 安全・安心に舎生活を送ることができるよう支援し、情報共有できたか。</p> <p>2 自己表現できる場面を大切に支援できたか。 舎生が自発的な選択行動ができているか。</p> <p>3 間の存在を意識し、自分の気持ちを人に伝える事ができるよう支援することができたか。</p>	
*取組状況・実践内容等	<p>1 舎生の心身の状態においては保護者、担任との連携を密に行い、指導員間でも情報共有に努めた。 毎日の支援や舎生の様子を支援計画シートに記録することで継続した支援や共通理解につながった。 学校と連携し、保健指導や食育指導、各訓練を実施することができた。</p> <p>2 舎生それぞれのペースを大切に自主的な発言や行動ができるよう待つ支援を大切にしました。</p> <p>3 舎生減の生活の中で少しでも舎生同士の関わりが持てるような支援を心がけた。 舎生会活動や日々の生活の中で意識的に場面設定した。</p>	
評価の視点		評価
① 舎生支援計画シートを活用して支援することができたか。また指導員間で共通理解し支援が行えたか。		A B <input checked="" type="radio"/> C D
② 保護者、学級担任、複数の指導員の話や意見、専門家のアドバイスを聞きながら多面的に舎生を捉えることができているか。		A <input checked="" type="radio"/> B C D
③ 舎生同士が自発的に関わることができたか。		A B <input checked="" type="radio"/> C D
成果・課題		総合評価
<p>① ▲学舎懇談については長期休業中を利用し、積極的に行う必要がある。 ○支援計画シートを活用し、指導員間で支援の方向性を共有し支援を積み重ねることができた。</p> <p>② ▲指導員間でそれぞれの考えや、思いなどを情報交換したり、共有したりする時間を大切にする 必要がある。 ○PT、OT 相談に活用することができ、支援の参考にできた。</p> <p>③ ▲舎生減少により仲間の事を考えさせる支援が難しい事がある。 ○行事や行事に向けての話し合いの場面を活用して仲間を意識できるように働きかけた。</p>		A B <input checked="" type="radio"/> C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援計画シートの見直し</li> <li>・余暇時間の充実（舎生同士が関わり合えるような）</li> <li>・共通した支援の取り組み方法について今後も学校との連絡会や懇談を設定する。</li> <li>・舎生会活動の在り方を考える。</li> <li>・年度はじめに「指導員の仕事について」「舎生の支援について」の思いを共通理解する場を設けられると良い。</li> <li>・指導員の意識を高め、切れ目のない支援をする。</li> <li>・主体的に考える事や行動が取れるような環境や支援を工夫する（自分が生活の主人公）。</li> </ul>	

## 学校関係者評価 (令和5年1月26日実施)

### 意見・要望・評価等

- ・単元シートや情報共有の仕方などどんな取組がなされたのか、1つ1つ具体的に取り組んでいる姿が見えてきた。共通理解をすることは、間違えると子ども達をいかに管理するかということになってしまう。そうではなく、一人ひとりが何をやりたいのか、それが科目や行事とどうつながっていくのかということが示されていた。単元シートの活用が中学部ではできているが、高等部では難しいということがあった。お互いに情報共有をしながらやっていき、それぞれがダイナミックに膨らんでいくようにしていくとよい。また、障がいを持っている人にとっては、存在価値をもつことが大切。そこに基盤をもちながら育てていくことが大切である。
- ・学習支援部の Teams の活用について興味をもった。弊社も機器の活用に力を入れているが、重度の障がい者が活用できることには大きな意味がある。若い子は自分でアプリを取り入れて活用する力に優れている。無料で活用できるコミュニケーションソフトもたくさんある。そういう点で弊社を活用していただけると良い。
- ・ICTの活用をよくされている印象がある。職員間、生徒、保護者、地域との連携、つながりがどんどん広がり、大きくなっているように感じている。視点も広がっている。「つながる会」も工夫されており、良い取組をされている。今後の共生社会という上でも、さらに連携して行ってほしい。
- ・先生方の日々の創意工夫が、温かな学校の雰囲気、児童生徒の主体性を育てることにつながっているのだと感じた。キャリア支援部からの進路の課題については、私たち生活を支援する福祉の立場との共通点を感じた。寄宿舎の課題・現状についても私たちと共通するところがある。日々の学校の取組と私たち福祉の取組が線になってつながっていくとよい。
- ・就職した卒業生が失敗した場合、どうフォローするのか、バックアップ体制を整えていく必要がある。また、50歳、60歳になったときにどうするか、親亡き後にどうするかという課題についても学校として考えてもらえるとよい。